

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103318
法人名	医療法人 上原クリニック
事業所名	グループホーム あかね
訪問調査日	平成 21 年 8 月 11 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 22 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月16日

【評価実施概要】

事業所番号	4670103318
法人名	医療法人 上原クリニック
事業所名	グループホーム あかね
所在地	鹿児島市山田町73番地1 (電 話) 099-275-8008

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年8月11日	評価確定日	平成21年10月22日

【情報提供票より】(平成21年5月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 6 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16	常勤 14人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15.1 人	

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2 階建て, 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000円 (管理費)	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(90,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	50円 (希望者のみ)
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(5 月 31 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.2 歳	最低 76 歳	最高 99 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人上原クリニック ・ 岡田脳神経クリニック ・ 脇元歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「茜色に映える田園風景」が美しく、「あかね」と名がつけられたホームは、その風景が残るのどかな住宅地域で、近くには小学校、中学校、スーパー、食品問屋などがあり暮らしやすい環境である。母体の医療機関が隣接しており健康管理や緊急時の対応がスムーズにできるため利用者・ご家族の安心感を得ている。利用者のニーズに合わせた特別室や準特別室の居室が設けてある。職員は研修に積極的な参加をしており資格取得を目指す人も多く、その知識や技術が日々のケアに活かされている。経営者は地元出身で地域の信頼も厚く、地域との交流が活発に行われているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前年度改善項目は「プライバシーの確保の徹底」で日常生活記録の保管場所について個人情報の管理面が課題であった。前年外部評価日の翌日生活記録の保管管理について検討され改善シートが作成されている。その後は継続して保管管理がなされている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は3ヶ月前からミーティング時、全職員とガイドブックにそって読み合わせをしながら項目についての意義や目的の説明を行い、意識付けを行っている。終了時点でユニットごとに白紙の自己評価表を配り、全職員で意見の書き込み作業を行い管理者がまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 過去1年間に運営推進会議は3回開催され、家族、地域代表、知識人等メンバーの出席はあるが、市職員又は包括支援センター職員の出席がない。会議はホーム側から利用者の状況や行事活動、職員の異動報告をした後、メンバーと地域の情報、助言、要望、質問など討議している。会議を通じて地域の方にホームの内容を理解をしてもらえるようになり効果を得ている。今後は定期的な会議開催と市職員参加が課題である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族会、運営推進会議、来訪時とご家族には意見や苦情を聞く姿勢で接している。直接話せない場合に備え意見箱の設置や苦情相談窓口担当者名を重要事項に明記している。出された意見や苦情は職員会議、ミーティングで話し合い運営に反映させる仕組みである。苦情受付記録簿も準備されているが過去1年内に苦情はない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、夏祭り、運動会、文化祭(作品出展)など地域行事に参加している。小学校の学習受け入れや運動会・愛護会活動への参加をし、婦人会からはボランティア(料理・話し相手・園外行事の手伝い)の受け入れをしている。当事業所の夏祭りには地域の方が多数参加し、12月の餅つきにも参加している。近隣の人からは花や野菜の差し入れがあったりホームの菜園の手伝いをもらったり日常的なつきあいが行われている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は地域密着型サービスの意義を理解しており、全職員で意見を出し合い利用者が地域の中の一員として、自らの力を発揮できるよう支援することを理念に反映させている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は会議で日々の取り組みが理念に基づいているか確認を行っている。理念をホームのホール、トイレ、更衣室などに掲示しサービス提供場面で理念の意識付けを図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り・運動会・文化祭の行事等に参加し、小学校や、婦人会(話し相手・料理手伝い・園外活動時の手伝いの受け入れ)との交流もしている。事業所の夏祭りや餅つきには地域住民の参加があり地域との交流が活発に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価・外部評価を実施する意義を理解しており、前年度の改善点については話し合いを行いサービスに活かしている。管理者は自己評価作成についても全職員に意義や目的の意識付けを行いながら職員の意見を活かした自己評価を作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去1年間に会議は3回開催されている。家族、地域代表、知識人の出席はあるが市職員又は包括支援センター職員の出席が無い。会議では利用者の状況、行事活動、職員異動の報告後、地域の情報や助言、要望、質問など討議が行われそこでの意見をサービスの向上に活かしている。	○	運営推進会議は2ヶ月に1回開催出来るように取り組みを期待します。さらに会議のメンバーに市職員又は包括支援センター職員の参加呼びかけを望みます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎年介護相談員の受け入れをしている。窓口では介護保険更新時書式変更等などがあれば相談や指導を受けている。包括支援センターを訪問し情報交換や相談を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者との対面を図り、利用料は窓口払いにしてあり、ご家族の毎月の来訪時に、ホーム側から利用者の生活の様子や健康状態など個々に報告している。また月に1回は必ず各家族に電話し定期的な報告をしている。金銭預かりのあるご家族には出納のコピーと領収書を渡し確認をもらっている。	○	ご家族には年に何度か定期的に「ホームたより」の発行をし、全体的なホームの様子や行事活動、行事予定、職員の異動など報告をされることを希望します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の毎月の来訪時には報告と同時に意見や要望を聞く姿勢を心がけている。ご家族の意見・苦情は家族会、運営推進会議、苦情箱の設置、苦情相談窓口など表せる機会を設けている。出された意見は職員会議、ミーティングで話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は数か所の関連事業所があるが、利用者へのダメージを防ぐため事業所間の異動は行っていない。ユニット間での異動はあるが馴染みの関係が出来ており影響はない。ホームは職場の雰囲気が良く離職者が少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では毎月勉強会を開催、法人の勉強会、公的外部研修、協議会の勉強会(毎月)に参加している。4名の職員はケアマネージャー資格、介護福祉士資格、認知症ケア専門士の認定等取得している。所長や管理者は勉強の機会の確保を図り職員は積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は谷山地区グループホーム協議会の毎月の勉強会に参加して同業者との交流の機会を持っている。以前は職員が他のホームを訪問できたが、昨年は管理者が地域のホームを訪問しサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず本人・家族にホームの見学をして貰い納得された上で利用の開始をしている。居室の空きがある場合体験入所を通して馴染んでもらいそのままサービス利用につなげる工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に対して尊敬の念を持って接し、支援する立場だけでなく、洋裁をしていたs人には雑巾作りやボタン付けをしてもらい、料理や洗濯などの家事の中での工夫を教わったりと、利用者の得意なことを教えてもらう場面を大切に、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人、家族から希望や、意向の把握をしている。入居後は職員が日常生活の関わりの中で言葉や表情、行動を通じて思いや意向の把握をし、ミーティングや職員会議で真意を汲み取る話し合いをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや意向を大切に、ご家族の意見や医師の意見を取り入れながら管理者、計画作成担当者、介護職員で検討会議を開催し意見を出し合いながら本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回定期的にモニタリングを行い、6ヶ月で計画の見直しを行っている。状態に変化が生じた場合は随時見直しを行い本人、家族、主治医の情報、気づきを基にスタッフで意見を出し合い新たな計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一敷地内に母体の医療機関があり、24時間健康管理、医療活用など医療連携体制が整っている。他の病院受診はご家族が付き添うことを原則としているがご家族の状況に応じて柔軟に対応している。移動の困難な利用者の移送支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については入居時に利用者やご家族に説明し納得の上、母体の医療機関へ変更となっている。かかりつけ医との連携がとられ、受診、月1回の往診、緊急時の対応など適切な医療支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に対するホームの指針を作成し、契約時に説明している。重度化した場合医師、看護師、所長、管理者、家族、で繰り返し話し合いを行い全員で対応の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録などの個人情報の取り扱いについては保管場所を設定し管理している。職員は法人の研修で年1～2回プライバシーについての研修受講し、尊厳ある対応や守秘義務についても理解している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとり一人の性格、ペースを把握し、スケジュールの中で声かけを行いながら、化粧をする人、食前酒を飲む人、買い物に出かける人、ゆっくり食事する人、居室でゆっくり過ごす人など本人本位な暮らし方に合わせた支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食品は代替品にしたり、食べやすい調理法にしたり、各ユニットごとに職員と利用者は食事の準備(下ごしらえ、味付け、盛り付け)を一緒に行い、同じ食事を一緒に食べて楽しんで食事ができるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回入浴するよう決めているがそれ以外であっても必要とする場合は柔軟に対応ができる。入浴嫌いな人には楽しみながら入って貰うことの工夫(往診があるからと声かけ、音楽や踊りで風呂場へ誘導、湯船にバラの花を浮かべたり、ゆず湯など)をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の下ごしらえ、台拭き、下膳、食器洗い、洗濯などの役割、ラッキョウ漬、梅干し漬けの出番、歌や踊りが好きな人の出番、裁縫が好きな人の出番等ひとり一人の得意分野や力を活かした場面作りを考え張り合いや喜びにつなげるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの菜園に出かけ作物の観賞や収穫をしている。近くの散歩や買い物にも出かけている。職員は私用で郵便局や銀行に出かける時にも一緒に出かけるように心がけている。月1回ドライブデーを目標にして本人希望の自宅や知人宅に出かける支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は開錠し、天気の良い日は扉も開放し自由に庭に出れる。出かける場合は隣接の医療機関や施設の前を通るため医療機関や施設の職員と協力体制ができており敷地内で気づき対応できる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自に職員と利用者、近所の方が参加し年2回(夜間想定)の火災)消火、避難、通報の訓練をしている。そのほか職員は隣接の医療機関と毎年1～2回合同訓練に参加している。	○	職員は火災や台風対策については、訓練や対策について話し合いが行われているものの、地震や水害についての訓練や研修は行われていない、今後これらについて危険個所の点検、備蓄品、避難手順など具体的な対策を立てられる事を望みます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立を参考に2ユニットの職員が一週間交代で献立を立てている。献立は管理栄養士から定期的に指導を受けている。食事や水分の摂取量、体重、排泄量が記録され、ひとり一人の摂取状況を把握し、補足支援もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは一角に畳のコーナー、ソファのコーナー、食堂コーナーがあり利用者に合ったくつろぎ方が出来るようにしてある。室内は七夕飾りやおずきが飾られ季節を感じる工夫がしてあり、風通しもよく換気、清掃が行き届き居心地良く過ごせる雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に居室づくりについて説明をしている。備え付けのベットタンスの他は各自が暮らしやすいようにパイプハンガー、炬燵、時計、シルバーカー、椅子など必要品の持ち込みがされている。大切な写真を飾ったり馴染みの品を置いて居心地良い部屋作りになっている。		